

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(GDP (IMF WEO) :<http://mylibrary.maeda1.jp/GDP.html>)

マイライブラリー:0574

(注)本稿は 2023 年 4 月 18 日から 23 日まで 3 回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2023.4.24

前田 高行

IMF 世界経済見通し: 低成長が続く先進国、ドイツはマイナス成長

IMF(国際通貨基金)が「世界経済見通し(World Economic Outlook、April 2023)」(以下、WEO)を発表した。また付属資料として世界各国及び地域の主要な経済指標を示した「データベース(World Economic Outlook Database)」も同時に公表した。

本稿では世界、主要経済圏、主要国の今年(2023 年)及び来年(2024 年)の成長率を比較し、また前回 1 月の経済見通し(World Economic Outlook Update)に対して GDP 成長率がどのように見直されたかを検討する。さらに昨年、今年及び来年の3か年の成長率の推移を比較する。また昨年4月、7月、10月、今年1月及び今回まで 5 回の WEO 見通しで今年(2023 年)の成長率がどのように見直されてきたかを精査する。

* WEO レポート:

<https://www.imf.org/en/Publications/WEO/Issues/2023/04/11/world-economic-outlook-april-2023>

* 同データベース

<https://www.imf.org/en/Publications/WEO/weo-database/2023/April>

(今年の世界の成長率は前回1月見通しを 0.1%下方修正し 2.8%に！)

1. 2023 年の GDP 成長率(末尾表 1-B-2-08 参照)

今回 4 月見通しでは今年の世界の成長率は 2.8%とされており、前回 1 月の 2.9%からわずかに下方修正されている。コロナ禍が終息したにもかかわらず、ウクライナ紛争の先行きが見えず、エネルギー価格も不安定な動きを示している。このことが中国の経済回復の遅れを招き、また日独など先進国の経済成長を下押ししている。

経済圏別に見ると EU 圏の 2023 年の成長率は 0.8%であり、1 月の数値を 0.1%アップしている。また ASEAN5 カ国も 4.3%から 4.5%に上方修正されている。これに対して中東・中央アジア諸国は 3.2%から 2.9%に引き下げられている。EU 圏はわずかに上方修正されているものの、ウクライナ紛争における対ロシア経済制裁及びエネルギー価格の急騰がブーメラン効果を及ぼしており、成長率は低い状態が続いている。

石油・天然ガスの産出国が多い中東・中央アジア諸国は、エネルギー価格高騰の恩恵を受け世界平均を上回る成長率であるが、エネルギー需要及び価格が共に低迷しているため今年の成長率は 3.2%から 2.9%に引き下げられている。

国別では今年の成長率は米国 1.6%、日本 1.3%、ドイツ▲0.1%、英国▲0.3%、ロシア 0.7%、中国 5.2%、インド 5.9%である。中国はコロナ以前二桁の高い成長を続けてきたものの、その後成長率が急減速している。しかしそれでも世界平均の 2.8%を大きく上回る成長率が見込まれている。これに対してヨーロッパ諸国は上記の通り EU 圏の成長率が 1%を下回り、ドイツ及び英国はマイナス成長と見込まれるなど不振が際立っている。

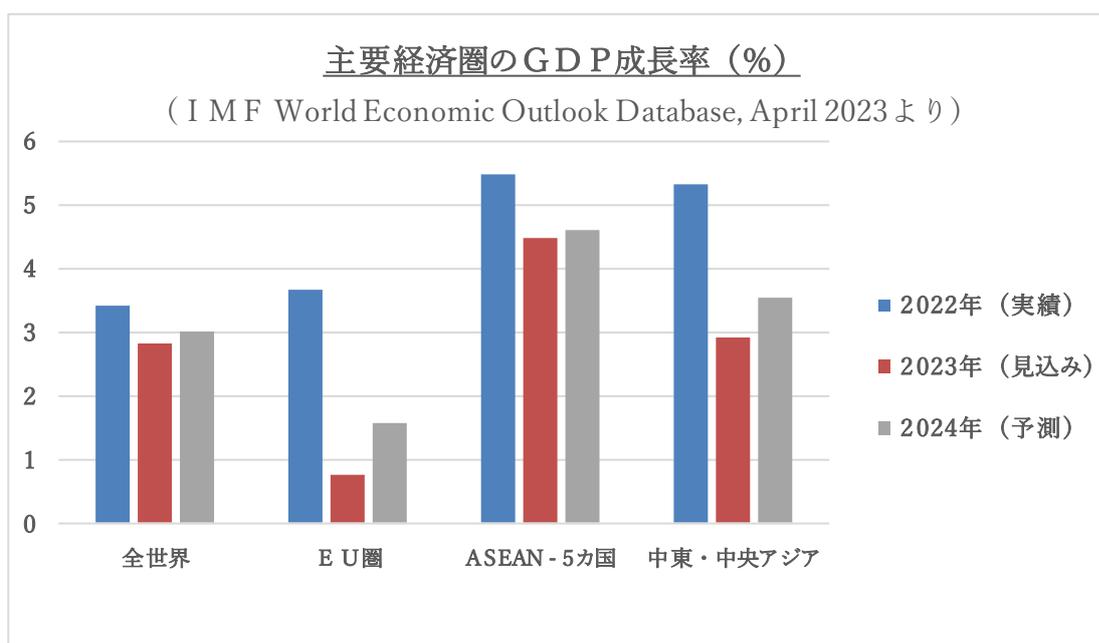
アジアでは中国及びインドは 5%を超える成長率が見込まれ、特にインドは世界最高水準の成長を達成しそうである。ASEAN5 か国の成長率も上記の通り 4.5%であり、いわゆるグローバルサウスのアジア諸国は欧米先進国はもとより世界平均を大幅に上回る成長が見込まれている。産油国のサウジアラビアは世界平均を少し上回る 3.1%の成長が見込まれるが、これに対してロシアは 0.7%の低成長にとどまっている。ロシアはサウジアラビアに並ぶ石油・天然ガスの生産国であるが、ウクライナ紛争の長期化による国内経済の悪化及び欧米諸国による経済制裁が大きく響いているようである。

2. 2022 年～2024 年の GDP 成長率

主要な経済圏と国家の昨年(実績見込み)、今年(予測)及び来年(予測)の GDP 成長率の推移を見ると以下の通りである。

(際立って低い今年と来年の EU 成長率！)

2-1 主要経済圏



全世界の 3 年間の成長率は 3.4%(2022 年)→2.8%(2023 年)→3.0%(2024 年)であり、3%前

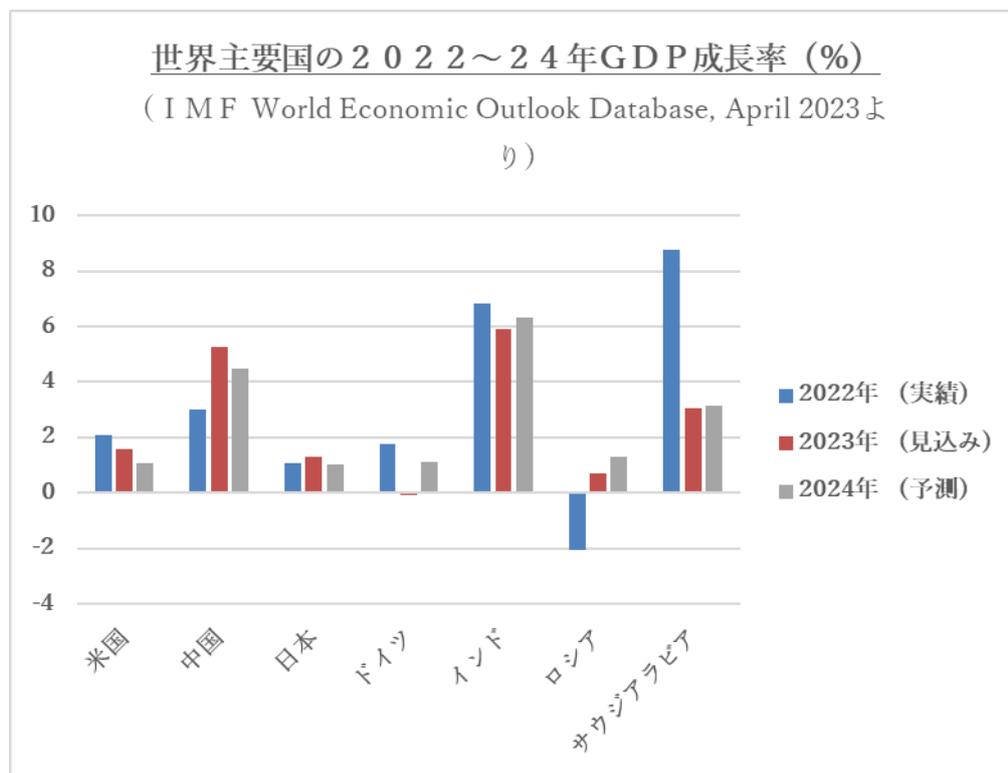
後で推移する見通しである。昨年及び今年はコロナ禍が回復に向かった一方、ウクライナ危機が長引きプラスとマイナスの要因が景気を停滞させており、前後 3 年間の成長率に大きな変化は無い。

ウクライナ危機の影響を最も大きく受けるのは EU 圏である。3 年間の成長率は 3.7%→0.8%→1.6%であり、今年が 3 年間で成長率が大きく落ち込んでおり、他の経済圏と比べても際立って低い。ASEAN5 カ国の成長率は 5.5%→4.5%→4.6%であり、世界平均を上回る高い成長率を維持する見通しである。

産油・ガス国が多い中東及び中央アジアの成長率はエネルギー価格の騰落に大きく影響され、3 年間の成長率の推移は 5.3%→2.9%→3.5%と見込まれている。昨年はエネルギー価格高騰の恩恵が大きかったが、今年及び来年は世界平均を少し上回る程度の成長率で推移する見通しである。

(中国を上回る高い成長率を続けるインド！)

2-2 主要国



米国の昨年の成長率は 2.1%であったが、今年(1.6%)、来年(1.1%)と連続して成長が鈍化する見通しである。日本の成長率は 1.1%→1.3%→1.0%と 1%台前半の低成長を続けるものとみられている。日本と同様先進工業国であるドイツの成長率は 1.8%→▲0.1%→1.1%であり、今年はずかではあるがマイナス成長になると予測されている。同国は原料のエネルギー輸入価格が高騰する一方、世界景気の低迷で輸出が伸び悩んでいることが低成長の大きな要因と考えられる。

中国は 3.0%→5.2%→4.5%であり、昨年から今年にかけて経済成長を回復するものの、その勢いは持続せず来年は 5%以下にとどまると予測されている。コロナ禍以前は二桁台の成長率を誇っ

ていたことに比べ中国の成長率は伸び悩んでいる。これに対してインドの成長率は 6.8%→5.9%→6.3%であり、世界平均を大きく上回る 6%前後の高い成長を維持する見込みである。

中国、インドなどと共に新興経済国 BRICS の一翼を担ってきたロシアの成長率は対照的な様相を呈している。昨年(2022 年)は一昨年に引き続くマイナス成長(▲2.0%)であり、今年(0.7%)、来年(1.3%)はプラスながらも低い成長率にとどまると予測されている。ウクライナ紛争は未だ終息の見通しが立っておらず、ロシアの今年の成長率が昨年同様マイナスに陥る可能性は否定できない。

産油国サウジアラビアの 3 カ年の成長率は 8.7%→3.1%→3.1%であり、昨年は原油価格高騰の恩恵を受けたが、今年及び来年は世界景気の回復が遅れる一方インフレによる輸入価格の高騰のため、昨年のような高い成長率は期待できないようである。

3. 2023 年 GDP 成長率見直しの推移

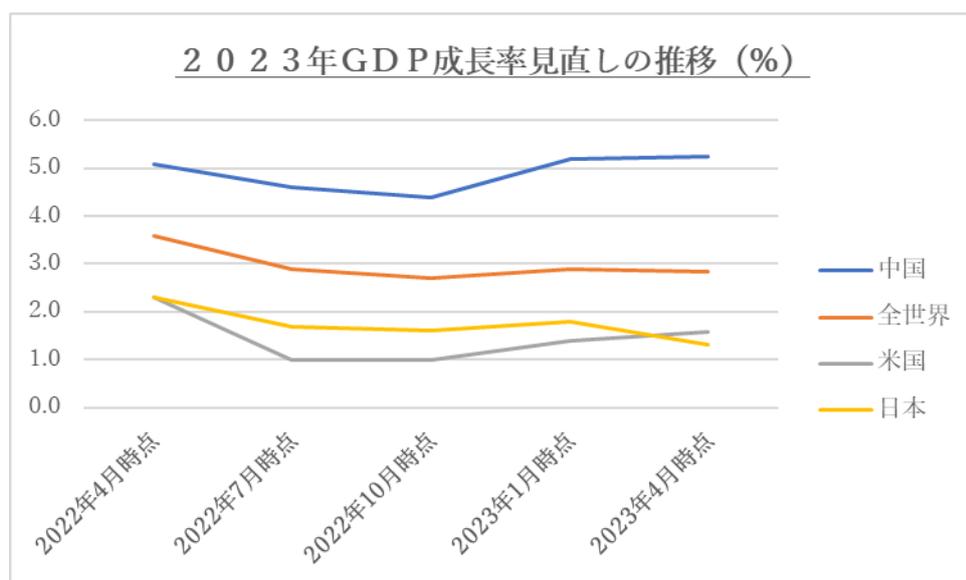
IMF の世界経済見通しは毎年 4 月、10 月に全世界 200 弱の国について成長率の見直しが行われ、さらに 1 月及び 7 月には主要な国と経済圏の成長率が発表されている。主要な国と経済圏については 3 カ月ごとに検証されていることになる。

最近の特徴はコロナ禍、ウクライナ紛争、エネルギー価格の高騰など国際経済を取り巻く環境の不透明感が増していることである。このため IMF の成長率見直しも 3 カ月ごとに大きく変動すると言う特徴が見られる。

ここでは直近 5 回(2022 年 4 月、7 月、10 月、2023 年 1 月及び今回 4 月)の成長率見直しの推移を比較する。

(直近 5 回で日本は今回が最も低く、中国は最も高い！)

3-1 全世界及び日本、米国、中国



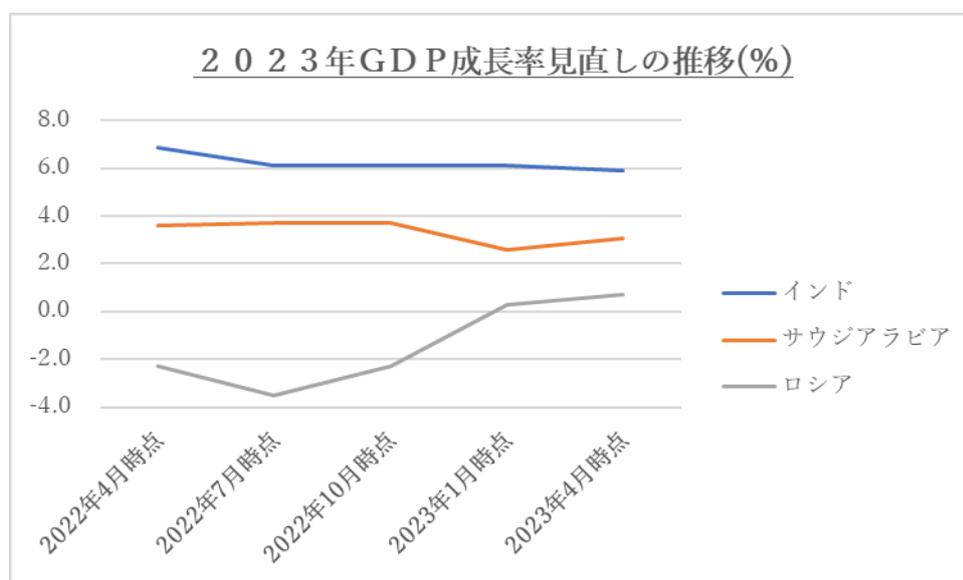
直近 5 回の IMF 経済見通しにおける 2023 年の世界の GDP 成長率は 2022 年 4 月見直しでは 3.6%であったが、その後 7 月には 2.9%、10 月は 2.7%と下方修正されたが、今年 1 月には本年の成長率は 2.9%に見直され、4 月もほぼ同じ水準に維持されている。

米国は 2.3%→1.0%→1.0%→1.0%→1.4%→1.6%と変化している。2022 年 7 月には大きく下方修正されたが、今年は年初から 2 回続けて上方修正されている。中国の場合は、5.1%→4.6%→4.4%→5.2%→5.2%であり、昨年 4 月から 2 回連続して成長率が下落したものの、今年は一転して 1 月、4 月見通しでは 5%台の成長率が想定されており、世界に先駆けて景気回復に向かうものと見込まれている。

日本の 2023 年成長率の過去 1 年間の数値は 2.3%→1.7%→1.6%→1.8%→1.3%と見直されている。昨年 4 月に成長率が 1%台に下方修正された後、現在まで低い成長率が据え置かれている。エネルギー価格の急騰は日本経済のアキレス腱であり、このことが早期の成長率回復の障害になっているようである。

(OPEC+の盟主サウジとロシアに極端な明暗、インドは 6%の高度成長！)

3-2 ロシアとサウジアラビアとインド



サウジアラビアとロシアは米国と並ぶ三大産油国であり、両国は OPEC+(プラス)の盟主として最近の石油価格の高値安定を主導している。昨年 4 月時点では 2023 年の成長率見通しはサウジアラビア 3.6%、ロシア▲2.3%であり、同年 2 月のウクライナ紛争ぶっ発が両国の明暗を分けた形であった。

紛争により石油価格が急騰したことは輸出国のサウジアラビアに大きな追い風となった一方、紛争当事者のロシアは経済制裁の影響を受け経済に深刻な懸念が生まれた。2022 年 10 月までの両国の成長率予測はほぼ同じ水準で維持されてきた。しかし今年 1 月はロシアの成長率が 0.3%とプラスに転じた一方、サウジアラビアの成長率は 2.6%に下方修正されている。今回 4 月には両国ともに成長が加速されサウジアラビア 3.1%、ロシア 0.7%に見直されている。

米国を中心とする先進国による経済制裁が続いているにも関わらずロシアの成長率が上方修正されていることは、インド、中国をはじめとするグローバルサウスの国々が欧米先進国と共同歩調を

取らず、或いはこれを奇貨としてロシアから安価なエネルギーを輸入し続けている現状を反映したものとみられる。

アジアの経済大国であるインドの 2023 年の GDP 成長率予測は、6.9%(2022 年 4 月時点)→6.1%(7 月)→6.1%(10 月)→6.1%(本年 1 月)→5.9%(4 月時点)である。昨年 7 月に下方修正され今回に至っているが、それでもインドの今年の成長率は世界平均を大きく上回る見通しである。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

MENAと世界主要国のGDP実質成長率(2023-24年)

国名	2023年4月見通し(今回)			2023年1月見通し(前回)		前回/今回比較	
	2023年 成長率 (%)	2024年 成長率 (%)	増減	2023年 成長率 (%)	2024年 成長率 (%)	2023年成 長率(%)	2024年成 長率(%)
全世界	2.8	3.0	0.2	2.9	3.1	▲ 0.1	▲ 0.1
米国	1.6	1.1	▲ 0.5	1.4	1.0	0.2	0.1
EU圏	0.8	1.6	0.8	0.7	1.8	0.1	▲ 0.2
ドイツ	▲ 0.1	1.1	1.2	0.1	1.4	▲ 0.2	▲ 0.3
日本	1.3	1.0	▲ 0.3	1.8	0.9	▲ 0.5	0.1
英国	▲ 0.3	1.0	1.2	▲ 0.6	0.9	0.3	0.1
中国	5.2	4.5	▲ 0.8	5.2	4.5	0.0	▲ 0.0
インド	5.9	6.3	0.4	6.1	6.8	▲ 0.2	▲ 0.5
ASEAN-5 ヶ国	4.5	4.6	0.1	4.3	4.7	0.2	▲ 0.1
ロシア	0.7	1.3	0.6	0.3	2.1	0.4	▲ 0.8
中東・中央アジア諸国	2.9	3.5	0.6	3.2	3.7	▲ 0.3	▲ 0.2
サウジアラビア	3.1	3.1	0.1	2.6	3.4	0.5	▲ 0.3

Source: IMF World Economic Outlook January & April 2023